安来市内遺跡分布調査概報 I

—（大塚・吉田・能義地区）—

1988年3月

安来市教育委員会

はじめに

本市においては，昭和４０年代の後半から，開発にともない埋蔵文化財の調査及び取扱について努力してきているところです。特に本市は県内６０００カ所の埋蔵文化財の１割に近い数が所在する地域であり，また，埋蔵文化財の特性として土中に埋まっており確認が困難な場合が多いため開発行為に伴いさまざまな問題が起こる原因にもなっています。しかし，昭和３７年以来の分布調査により多数の埋蔵文化財の所在が明らかになり，安来市の歴史が分かってきつつありますし，また，開発計画への対処も適切に行う事ができるように成ってきています。このように，埋蔵文化財の正確な所在と把握には現地の踏地を実施する分布調査しかありません。

そのため，本年度から昭和６４年度までの３カ年計画で埋蔵文化財の分布図と測量調査などによって資料の作成を行ってまいります。今回の調査は大塚，吉田，能義の３地区で実施致しました。この調査によって市民の皆様に安来市の埋蔵文化財の概要を知っていただくと共に，埋蔵文化財の保護に資するよう努めてまいる所存です。

最後になりましたが，調査につきましてご協力を賜りました関係各位に深く感謝いたします。

昭和６３年３月

安来市教育委員会

教育長　三　島　俊　夫

目　　次

埋蔵文化財一覧表 …… 1

埋蔵文化財位置図　（図１・２）

矢田古墳群について

矢田古墳群 …… 6

矢田古墳群古墳位置図　（図　３）

矢田古墳群古墳一覧表 …… 7

山国郷新造院跡について

能義神社奥の院古墳について

附

図　４　　矢田古墳群宮谷支群１６・１７・１８号地形測量図

図　５　　宮の谷支群１７号竪穴式石室実測図

図　６　　山国郷新造院跡及び瓦窯跡周辺地形測量図

図　７　　能義神社奥の院古墳地形測量図

例　　言

1．本書は昭和６２年に国庫補助と県費補助を得て実施した安来市大塚，吉田，能義地区の埋蔵文化財分布調査報告書である。

なお，島田，宇賀荘，安来地区は昭和６３年度に，赤江，荒島，飯梨地区については昭和６４年度に分布調査を実施し，報告書を刊行する計画である。

2．本書の周知の埋蔵文化財の番号は昭和６１年度に刊行された「島根県遺跡地図１」を使用し，昭和６４年に設画されている最終の分布調査報告で番号を整理する予定である。

3．本市で周知されている埋蔵文化財＝遺跡は現在４５３ケ所である。

4．本書の作成に当たっては，現地の踏査を行い，できる限り正確を期したが，今後も正確を極めるための調査は必要である。また，内容について本書の紙面の関係で不十分な点も多いと考えられる。そのため群細については安来市教育委員会に照会いただきたい。

なお，地図上で周知の埋蔵文化財となっていない部分でも，開発を計画される場合は，安来市教育委員会に照会をお願いしたい。

5．本書に掲載した地図は，建設省国土地理院発行の２万５千分の１の地形図「広瀬」，「母里」と安来市森林基本図（指令造第６－２）の一部を使用した。

大塚・吉田・能義地区の埋蔵文化財一覧

（表　1）

番号	名称	種別	所在地	概要
2	潜戸山遺跡	住居跡	沢町潜戸山683	竪穴式住居・弥生土器中期,「安来市の遺跡調査報告第一集」昭和55年弥生土器（出土土器は安来市指定文化財）
5	宮神坊遺跡	住居跡	上吉田町宮神坊	
6	八脇谷遺跡	住居跡	大塚町殿河内	竪穴式住居跡３軒・弥生土器・須恵器・石斧・鉄斧　消滅,「上代文化」第33輯昭和38年
7	福島宅前遺跡	住居跡	大塚町殿河内2076	竪穴式住居跡　弥生土器　消滅　№418 懸川遺跡の範囲に含まれるものと考えられる
8	細井谷遺跡	散布地	上吉田町細井谷	石斧
9	松実遺跡	散布地	大塚町恋の奥2442	斧　弥生土器　土師器　須恵器
15	高宮遺跡	散布地	吉岡町高宮７	石斧　消滅
61	こながら山遺跡	散布地	大塚町殿河内	須恵器（糸切り痕）・土製支脚
62	こながら山古墳群	古墳	大塚町殿河内	２基
76	鳥越古墳群	古墳・横穴	利弘町	前方後円墳・横穴６基以上
83	能義神社奥の院古墳群	古墳	能義町能義366ほか	９基
84	能義神社旧社地古墳	古墳	能義町能義366	
85	上の谷古墳群	古墳	能義町	径16m　高1.5m　玉類多数　人骨は朱塗（鳥取大学医学部）
86	上の谷横穴群	横穴	能義町	２穴　消滅
87	矢田古墳群	古墳・横穴	矢田町椿谷・宮谷	（図３参照）（椿谷古墳群）
88	西谷横穴群	横穴	利弘町	11基以上
89	矢田古墳群			（矢田横穴群）昭和35年発掘調査
90	矢田古墳群			（岩隅横穴群）
91	矢田古墳群			（宮谷横穴群）
92	伊和夫横穴群	横穴	飯生町伊和夫	６基以上
93	実松八幡裏横穴群	横穴	実松町	11穴以上　死床　山本清「西山陰の横穴について」『島根大学論集（人文科学）８号』昭和33年
94	意多伎神社横穴群	横穴	飯生町679	２穴（丸天井）丘陵先端斜面に所在する。
95	意多伎神社古墳群	古墳	飯生町679	３基
	意多伎神社１号墳			方墳（19×19m　高3.5m）列石　丘陵先端部に所在する。
	意多伎神社２号墳			方墳（14×17m　高2.5m）
	意多伎神社３号墳			一辺12.6m　前方後円墳の前方部か　竪穴式石室？神社境内拡張工事で大部分消滅
96	今若峠古墳群	古墳	飯生町今若峠	２基
	今若峠１号墳			円墳（径29m，高さ3.5m）石棺（長持石棺と考えられる。縄掛け突起がある）鏡１　鏃　曲玉３　管玉28　直刀３
	今若峠２号墳			前方後円墳（全長19m）後円部は盗掘を受けている
97	えぐり谷横穴群	横穴	飯生町	20基以上　金環２，直刀２，刀子２，須恵器多数
98	祝谷横穴群	横穴	飯生町	金環２　須恵器多数
99	長江山横穴群	横穴	飯生町	４基　須恵器多数
100	大平横穴	横穴	飯生町	直刀１　須恵器多数
101	西宮谷古墳群	古墳・横穴	利弘町	前方後円墳と考えられるもの１基，円墳７基，12穴　直刀1，刀子２
102	東宮谷横穴群	横穴	利弘町	３穴　須恵器多数
103	古寺谷横穴	横穴	利弘町	２穴，直刀１　刀子１　須恵器多数
104	金堀谷横穴群	横穴	利弘町	３穴，直刀１　須恵器多数
105	御崎谷横穴群	横穴	利弘町	２穴，須恵器多数
106	築山古墳群	古墳・横穴	利弘町	円墳５基，横穴２穴，直刀１　須恵器多数　東側斜面に所在する
107	天神山古墳	古墳	沢町	円墳　頂10m，円筒埴輪，朝顔形埴輪　未発掘
108	天地山横穴	横穴	沢町	未発掘

（表　2）

番号	名称	種別	所在地	概要
109	地福寺古墳	古墳	沢町	方墳10×10m，高1.5m
110	長ぞね古墳	古墳	沢町	
111	おさき谷横穴群	横穴	沢町	6穴
112	赤崎横穴群	横穴	赤崎町	3穴　金環1
113	大荒神横穴群	横穴	月坂町	6穴　角付変形壷1，変形土器　京都博物館所蔵
114	逃谷横穴群	横穴	月坂町	2穴　直刀1，須恵器
115	日御崎横穴	横穴	月坂町	
116	中尾奥横穴	横穴	月坂町	人骨，杯，壷，平瓶，直刀
117	大高丸横穴群	横穴	月坂町	
118	日仮屋横穴	横穴	月坂町	
140	先前古墳群	古墳	上吉田町別所1460	古墳7基　階段状のものと平坦面に円墳が築造されている
141	宮神坊古墳群	古墳	上吉田町宮神坊	円墳
142	菖蒲谷古墳群	古墳	吉田町別所	円墳2基　住居跡1棟
143	大明古墳群	古墳	上吉田町	前方後円墳（全長23m）を含む9基の古墳から成る
144	宮谷古墳群	古墳	下吉田町横手878	古墳11基
145	三崎谷古墳群	古墳	下吉田町	
146	後谷古墳群	古墳	下吉田町飯場	
147	隠居谷古墳群	古墳	下吉田町横手	
148	正福寺古墳群	古墳	下吉田町正福寺	
149	坂本古墳	古墳	下吉田町坂本	
150	ししが鼻横穴	横穴	下吉田町	金環1，長頸壷1，杯，その他
151	御立山古墳群	古墳	鳥木町字内山378ノ1	8基　昭和38年発掘調査
	第一支群1号墳			円墳
	第一支群2号墳			円墳
	第一支群3号墳			方墳
	第一支群4号墳			方墳
	第一支群5号墳			方墳
	第一支群6号墳			方墳
	第二支群1号墳			円墳
	第二支群2号墳			方墳
157	鳥木横穴	横穴	鳥木町203	圭頭太刀，辻金具，刀身，その他，東京国立博物館所蔵，山本清『西山陰の横穴について』『島根大学輪集（人文科学）8号』S．33
158	鳥木古墳	古墳	鳥木町203	円墳　未発掘
159	山廻古墳群	古墳	大塚町山廻2457	円墳16基（丘陵の頂上部には径23mの円墳が所在する）前方後円墳1基（全長25m）旧称(家の奥古墳群)
160	家の谷古墳群	古墳	大塚町家の谷2471	円墳6基　丘陵の先端部及び中腹に所在する　旧称（松実古墳群）
165	神納古墳群	古墳	大塚町神納	3基
	神納1号墳			円墳
	神納2号墳			方墳　封土流失
	神納3号墳			円墳
166	眼ケ平古墳群	古墳	大塚町眼ケ平2403	古墳13基　径23mの円墳や前方後円墳2基所在する
167	善福寺横穴群	横穴	大塚町殿川内1860	天井落盤，未発掘　埋没
168	八脇谷横穴群	横穴	大塚町八脇谷	既掘　4基の可能性あり
169	東丸山横穴群	横穴	大塚町	家形石棺，子持円筒，須恵器多数，マウンドあり
170	東山古墳群	古墳	大塚町	
171	後馬籠谷古墳群	古墳・横穴	大塚町	5基以上　横穴群も所在する　須恵器片が出土している
172	八万宮古墳群	古墳	大塚町	2基

（表　3）

番号	名称	種別	所在地	概要
172	八万宮1号墳			円墳　円筒埴輪　既掘
	八万宮2号墳			方墳（12×12m）未発掘
174	大塚八幡宮地下式坑	地下式坑	大塚町950	口径1.4m
176	茶屋古墳群	古墳	大塚町茶屋	2基
	茶屋1号墳			島根県史4
	茶屋2号墳			
178	千人塚古墳	古墳	大塚町	方墳　方墳（10×10m）
183	山国郷新造院跡	寺院跡	上吉田町別所字釈加堂833ほか	釈迦堂が所在していた（図6参照）
186	光恩寺跡	寺院跡	利弘町総荒神谷	井戸，五輪塔
187	蓮華寺跡	寺院跡	利弘町	大日堂
189	城光寺跡	寺院跡	飯生町字城光寺	現在，桧が植えられ，他は畑に使用される
192	山国郷新造院瓦窯跡	窯跡	上吉田町字大門1510	1基　平瓦　既掘（図6参照）
194	廻谷窯跡	窯跡	上吉田町別所	須恵器
195	赤崎山城跡	城跡	赤崎町城山	
196	飯生百貫掘城	城跡	飯生町	
200	田中要害山城跡	山城	上吉田町	土塁，水路
201	川手要害山城跡	山城	上吉田町	切り掘り
206	利弘加茂神社古墳群	古墳	利弘町521	2基　方墳13.5×9.5m，高さ2m，半壊のもの1基一辺7.8m
210	鍵尾遺跡	土壙墓	沢町鍵尾谷	昭和37・38年発掘調査他
218	墓根経塚	経塚	沢町墓根	葺石
219	愛宕山経塚	経塚	飯生町841	経筒2（長10cm・4.4cm）　備前焼壷（経典に永禄5年の銘あり）
221	舎人郷正倉跡	正倉院	沢町阿弥陀堂611	炭化米　須恵器
226	蓮華寺宝篋印塔	古墓	利弘町宮谷	笠・胴1基
227	利弘加茂神社神社宝篋印塔	古墓	利弘町	
237	国重遺跡	散布地	大塚町国重841	土師器　須恵器　丘陵斜面東側に所在する
239	五反田遺跡	散布地	上吉田町鳴滝	土師器，須恵器
240	能義神社遺跡	住居跡	能義町366	住居跡　柱穴　土師器他　昭和42年発掘調査『安来市の遺跡調査報告　第1集』昭和55年
241	切り通し遺跡	住居跡	能義町366－5	住居跡　土師器　弥生土器
243	垣遺跡	住居跡	下吉田町垣	住居跡　須恵器　土師器
245	十善遺跡	散布地	鳥木町十善	分銅形土製品　弥生土器
248	横手遺跡	住居跡	下吉田町横手	竪穴住居跡
249	茶屋遺跡	散布地	大塚町茶屋	弥生土器
252	長陽寺裏横穴	横穴	赤崎町609	
261	逃谷古墳群	古墳	月坂町	円墳　8基
267	唐梨古墳群	古墳	大塚町懸川	円墳5基他
271	小丸山古墳	古墳	下吉田町ししが鼻	径13.5m，高さ1.7m　葺石　盗掘穴がある
272	神納横穴	横穴	大塚町神納	消滅
274	上丸山古墳群	古墳	大塚町上丸山	前方後方墳　須恵器
275	長尾崎古墳群	古墳	鳥木町長尾崎	円墳
276	ひるまば横穴	横穴	大塚町茶屋	
281	矢田古墳	古墳	矢田町	壷棺　矢田古墳群に含まれる
284	えぐり谷古墳群	古墳	飯生町	16基　横穴に伴うものと考えられる
285	堂廻古墳群	古墳	大塚町堂廻2441－1	7基　旧称（恋の奥古墳群）
295	社日山横穴群	横穴	月坂町	
296	宗見寺裏山土壙墓	土壙墓	飯生町	土師器
301	地福寺土壙墓	土壙墓	沢町	弥生土器

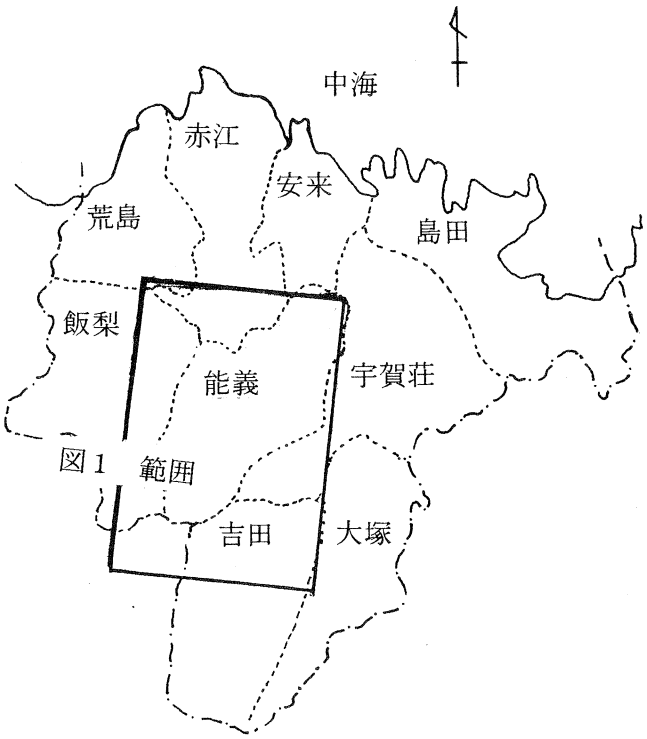
（表　4）

番号	名称	種別	所在地	概要
302	築山土壙墓	土壙墓	利弘町	弥生土器　5基
303	林谷横穴群	横穴	利弘町	3穴以上
306	中尾横穴群	横穴	月坂町	2穴
309	吉田川Ⅱ遺跡	散布地	沢町	弥生土器
311	利弘遺跡	散布地	利弘町	石斧
312	井手上遺跡	散布地	鳥木町	須恵器2個（蓋　山本編年Ⅰ期）
320	ししが鼻経塚	経塚	下吉田町ししが鼻	
324	茶屋地下式坑	地下式坑	大塚町茶屋1181－7	2基
326	長谷津谷横穴群	横穴	月坂町長谷津谷	昭和46年発掘調査
350	工ノ谷古墳群	古墳	能義町	4基以上　方墳
351	坊主山横穴	横穴	能義町山崎	四注式平入　須恵器（山本編年Ⅲ期）
352	越石遺跡	散布地	沢町	前期弥生土器
353	船山横穴	横穴	赤崎町	テント形平入
354	船山古墳群	古墳	赤崎町	全長20mの前方後円墳．周辺は平垣な面を呈する。
355	安養寺横穴	横穴	赤崎町	
357	若葉経塚	経塚	切川町	一字一石経
358	大荒神古墳	古墳	月坂町	
359	中尾墳墓群	墳墓群	月坂町中尾	弥生台状墓，火葬骨・宝篋印塔，昭和58年発掘調査
360		土壙墓	月坂町	「安来平野における土壙墓」『上代文化』第36輯昭和41年
361	和田荒神古墳群	古墳	月坂町	
362	西山辺横穴群	横穴	月坂町	2基　テント形平入
363	古市遺跡	散布地	大塚町古市1440	須恵器　弥生土器　土師器　軒丸瓦　軒平瓦　昭和60年発掘調査「古市遺跡調査報告書」昭和61年
417	大上谷遺跡	住居跡	大塚町殿川内	炭化物
418	懸川遺跡	住居跡	大塚町殿川内	土師器
419	唐梨古墳群	古墳	大塚町殿川内	円墳　5基他
420	高尾遺跡	散布地	大塚町八脇谷	須恵器
422	茶屋A横穴群	横穴	大塚町茶屋	消滅
423	茶屋B横穴群	横穴	大塚町茶屋	テント形妻入
424	眼ケ平遺跡	住居跡	大塚町眼ケ平	平坦面
425	田中八幡古墳	古墳	飯生町976	15×15m　高さ2.4m　平坦な壇上に築造しているように見える
426		古墳	大塚町	円墳　6基
427	弥勒寺跡	寺院跡	東切川町	
428	加唐古墳群	古墳	大塚町殿川内	円墳2基
429		古墳	大塚町	円墳2基
430		古墳	大塚町	円墳1基
431		古墳	大塚町	円墳2基
432		古墳	大塚町	円墳1基
433	鳥木ガランサン遺跡	散布地	鳥木町	布目平瓦
434		城跡	下吉田町	
435		古墳	矢田町	円墳6基（横穴が所在する可能性がある）
436		古墳	実松町	円墳2基
437		古墳	実松町	円墳1基
438		古墳・横穴	飯生町	古墳10基　横穴1穴
439	小谷山横穴群	横穴	矢田町	横穴3基以上
440	高津神社上古墳群	古墳	矢田町	円墳7基
441		蔵跡	松実町	江戸時代　母里藩

（表　5）

番号	名　称	種　別	所　在　地	概　要
442		蔵　跡	下吉田町	江戸時代　松江藩
443		蔵　跡	大塚町	江戸時代　母里藩
444	松実五輪塔	古　墓	松実町	２基
445		城　跡	下吉田町	31×31ｍの方形の壇
446	吉田天場遺跡		上吉田町	土師器　ミゾ状遺構
447	小林遺跡	住居跡	利弘町	住居跡　弥生時代末
448	八幡成要害	城　跡	利弘町	
449	医王寺跡	寺院跡	利弘町	薬師如来座像１躯
450	大乗院跡	寺院跡	利弘町	消滅
451	エンジョウ寺跡	寺院跡	利弘町	
452	光明院跡	寺院跡	利弘町	
453	宮嶋神社跡	神社跡	利弘町	島根県指定文化財「保元元年の記念銘鏡」出土位置

※　名称のない遺跡は，字名などを調査した後遺跡名を決定したい。



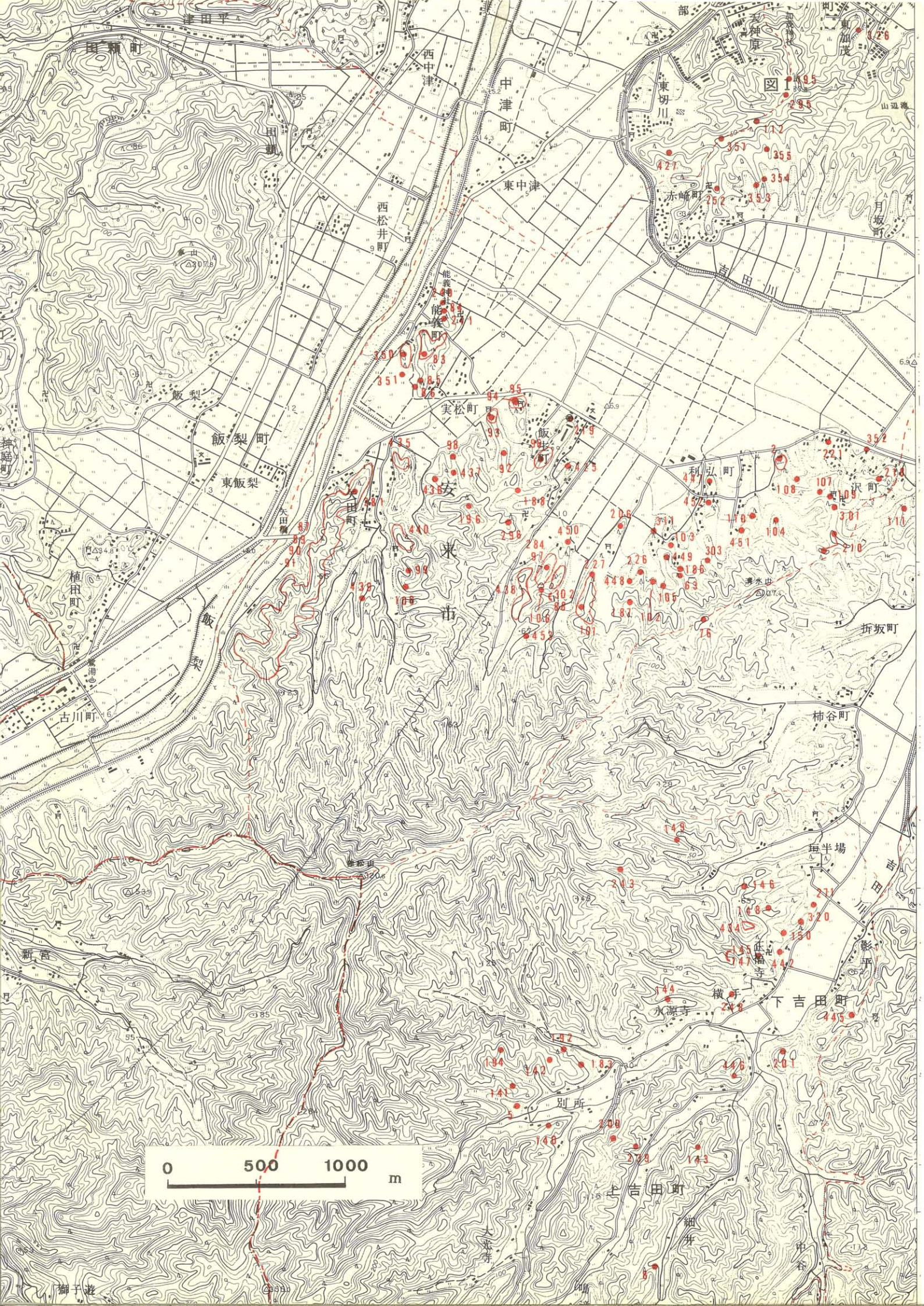


図1
田頼町
津田平
西中津
中津町
東中津
西松井町
能義町
実松町
飯梨町
東飯梨
安来市
植田町
古川町
新宮
赤崎町
月坂町
利弘町
沢町
柿谷町
垣半場
横手
下吉田町
上吉田町
別所
細井
中谷
獅子遊
0 500 1000 m

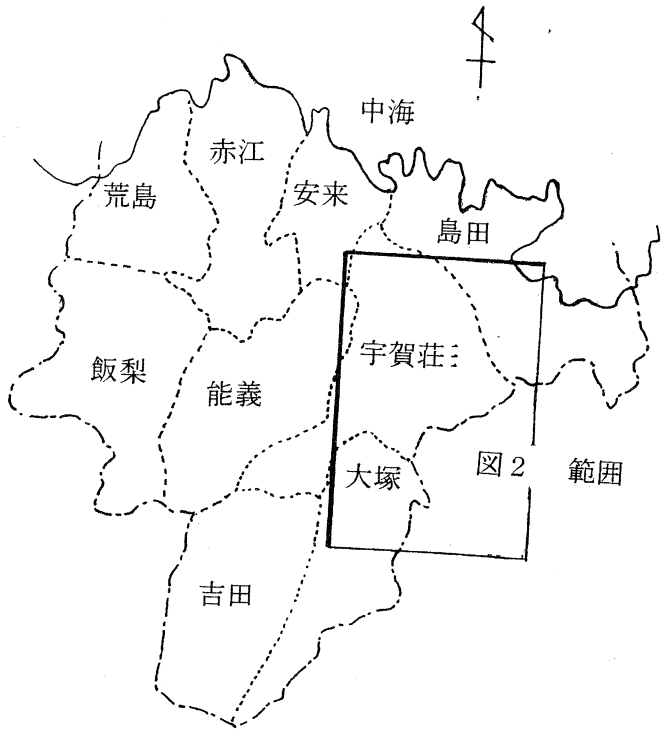

中海
赤江
荒島
安来
島田
飯梨
能義
宇賀荘
大塚
図2
範囲
吉田

図2

0 500 1000 m

繁殖育成場
早田町
清水町
山陰
門生町
安来
丸重町
清水寺
清水峠
宇賀荘町
新御堂
真米
市中
雲樹寺
吉岡町
月坂町
山辺
野方町
清井町
折坂町
吉田川
清瀬町
清瀬
茶屋
大塚町
伯
土手
長田
安田
北谷
大熊谷
替地
石堂
丹部
安田川
横山
安田中
伯
太
町
中村
安田宮内
郷土
太明
鳥木町
松実
丸山
東町
国服
城山
殿井内
中坪
井戸
西市
原代
母里
豊原
古市
下古市
高下
御笠
西母里
方ケ峠
守納
隠居

矢　田　古　墳　群

矢田町の丘陵には現在，№８７椿谷古墳群・№８８宮谷古墳群・№８９矢田横穴群・№９０岩隈横穴群・№９１宮谷横穴群が周知されている。その経過は以下のとおりである。

椿谷古墳群は，内田才氏による昭和３７年の調査により竪穴式石室を主体部とする古墳が所在することが明らかにされる。その後，昭和４８年の調査により１３基の古墳から成る古墳群であることが明らかになった。そして，この竪穴式石室の古墳は第７号墳として台帳に登録されている。宮谷古墳群も同じく昭和３７年の調査によって前方後方墳が所在することが明らかになった。その後，昭和４８年の調査により，５基の古墳が所在すると登録された。矢田横穴群は昭和３５年１月４日～１月２０日まで発掘調査が実施され，第Ⅰ群で横穴５基，「墳形に類するもの」１基が確認され，第Ⅱ群でも横穴５基，「墳形に類するもの」１基が確認されている。[①]岩隈横穴群，宮の谷横穴群も昭和３７年の調査により確認されている。その後，原田律夫氏の調査により椿谷古墳群として５３基の古墳が所在することが確認されている。[②]
今回の調査によって，これらの古墳群，横穴群を１つの古墳群とし，今までのものをいくつかの支群として取らえてはどうかと考える。なぜならば，この古墳群は最南端に確認されている古墳の南側には少なくとも７００ｍまでは明確な古墳というべきものを見ることはできず，すべて矢田町に所在し，また，現在，古墳群の名称になっている椿谷というのは古墳群が所在する丘陵の飯梨川に面する谷の名前にすぎないためである。古墳群を支群の分けることについては，古墳群の立地や古墳の纏まりの間隔から支群に分けることが可能と考えられる。このことから，今回矢田古墳群を岩隈谷支群，宮谷支群，椿谷古墳群，須賀谷支群の４つ分けて取らえた。（表６．７．８．９．１０参照）

岩隈谷支群１４基（前方後円墳２基・方墳７基・円墳５基）図３においては古墳をＩと標記した。

宮谷支群３０基（前方後円墳２基・方墳８基・円墳２０基）横穴５穴　図３においては古墳をＭ・横穴をＭＹと標記した。

椿谷古墳群１８基（前方後円墳１基・方墳３基・円墳２７基）横穴２２穴　図３においては古墳をＴ・横穴をＴＹと標記した。

須賀谷支群３２基（前方後円墳２基・方墳５基・円墳２５基）横穴３０穴　図３においては古墳をＳ・横穴をＳＹと標記した。

矢田古墳群宮谷支群17号墳について（図4・5参照）

今回測量調査を実施した宮谷支群１７号墳は昭和４５年に刊行された「安来市誌」でも紹介されている。しかし，この時は墳形等については説明がなかったことから再度の調査となった。

調査の結果，この古墳は方墳である。標高は７８ｍで，谷奥で丘陵が出会う部分に築造されている。古墳からの眺望に比べて，下から見上げると古墳の姿はあまり良くないように感じられる。また，この古墳は南側に所在する前方後円墳によって南西の隅が壊されあたかも南側は円墳のようになっている。規模は東西側が２５ｍ，南北側が１９ｍ，最も高く見える部分の高さが3.５ｍである。崩壊した東・南部分の清掃で古墳裾部には葺石が施されていることが分かった。これらの石はいずれも割石である。

竪穴式石室は古墳のほぼ中央に位置し，主体部の主軸は墳丘東西の向きにほぼ等しくＮ－７７°－Ｗである。石は大半が周辺でよくみられる割石である。これらを小口積みにしているものの５０cm大のものを使用しているため，雑な造りの感じは免れない。西側が広く両隅は丸なる造りとなっている。床面は盗掘時にかなり荒されたようで，構造は明確には分からないが西側に明黄褐色の粘土が残っており，この土が石室の床面を全面覆っていたものと推定できる。その下は円礫を含む土層と成っている。また，棺を乗せるためのものと考えられるが，４個の割石を横にあるいは立てて置いている。これらの石のレベルは東側のものが低くなっており，排水施設の方向を示唆するものではないかと考えられる。これらの石から，本来は床面は天井石から約５０～６０cmの所にあったのではないかと推定できる。規模は長さ４３２cm，西側幅９５cm，東側幅７０cm，西側高さ８０cm，東側高さ７５cmである。この石室内の清掃で鏃（鉄鏃カ）が検出したとされる。③

註　①．島根県埋蔵文化財調査報告書　第１集　昭和４４年　島根県教育委員会

②．島根大百科事典　昭和５８年　山陰中央新報社

③．内田才　昭和３７年８月１日現在　安来市文化財（埋蔵）所在表

図3　矢田古墳群分布図

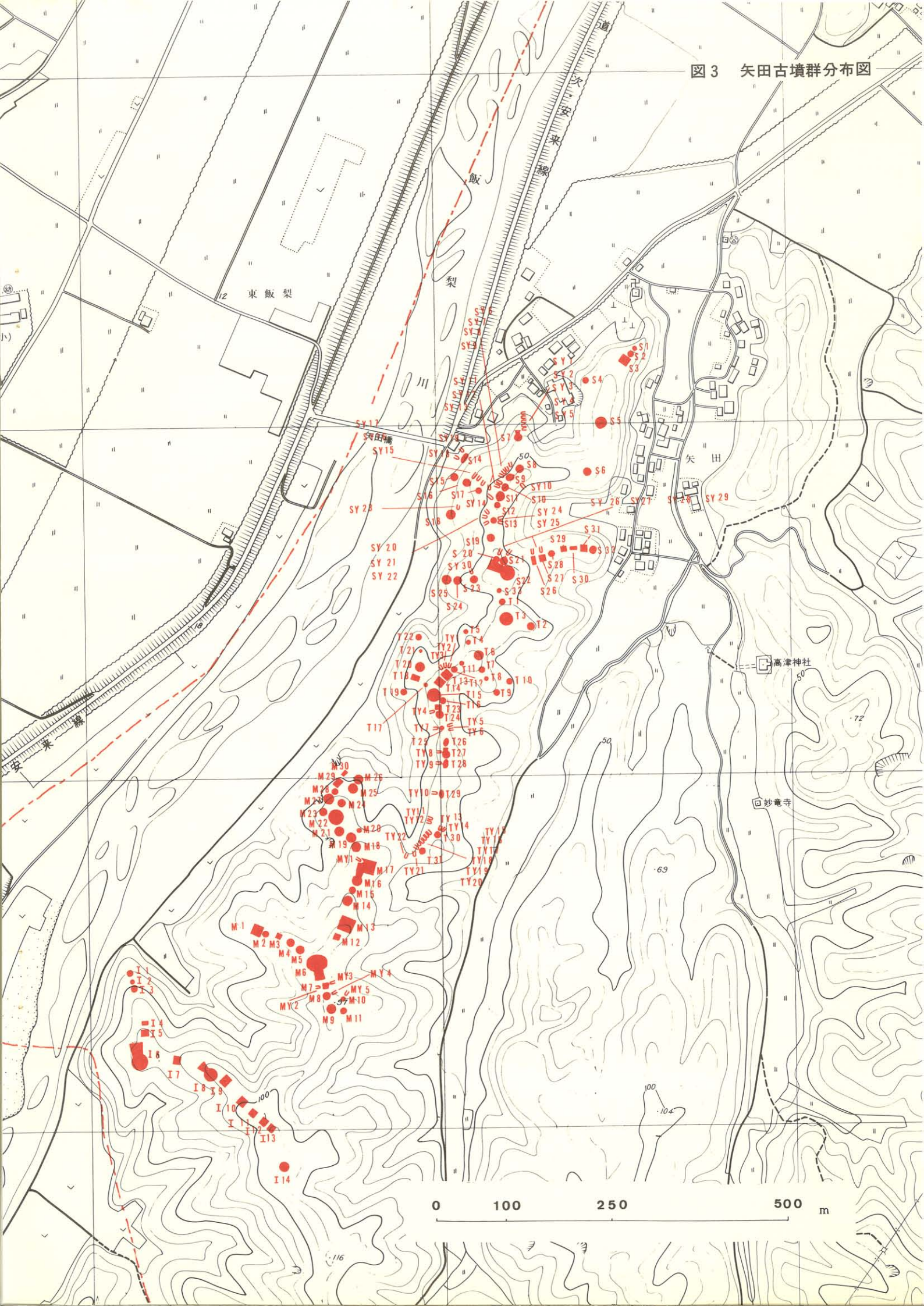


図4　矢田古墳群　宮谷支群16・17・18号墳

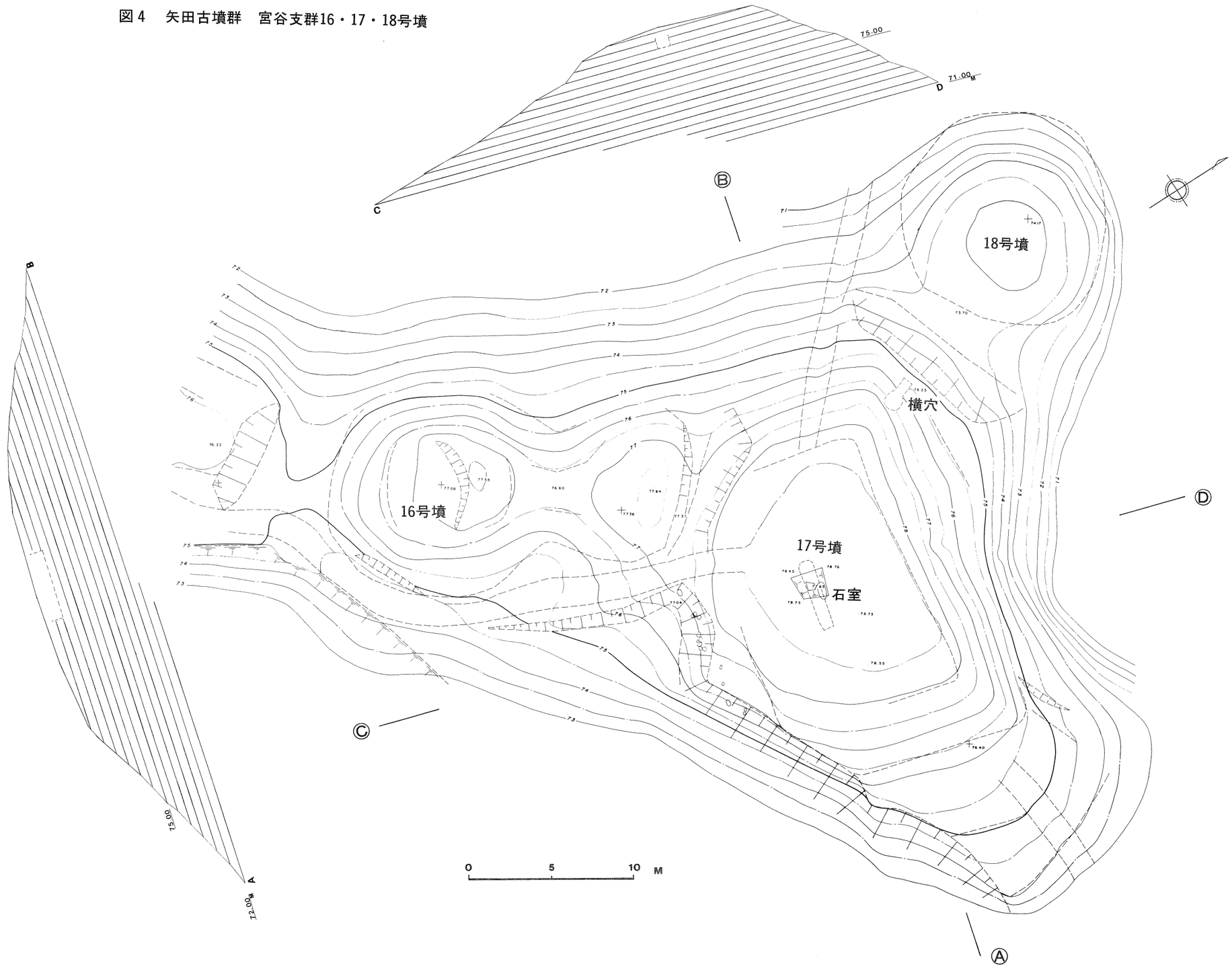
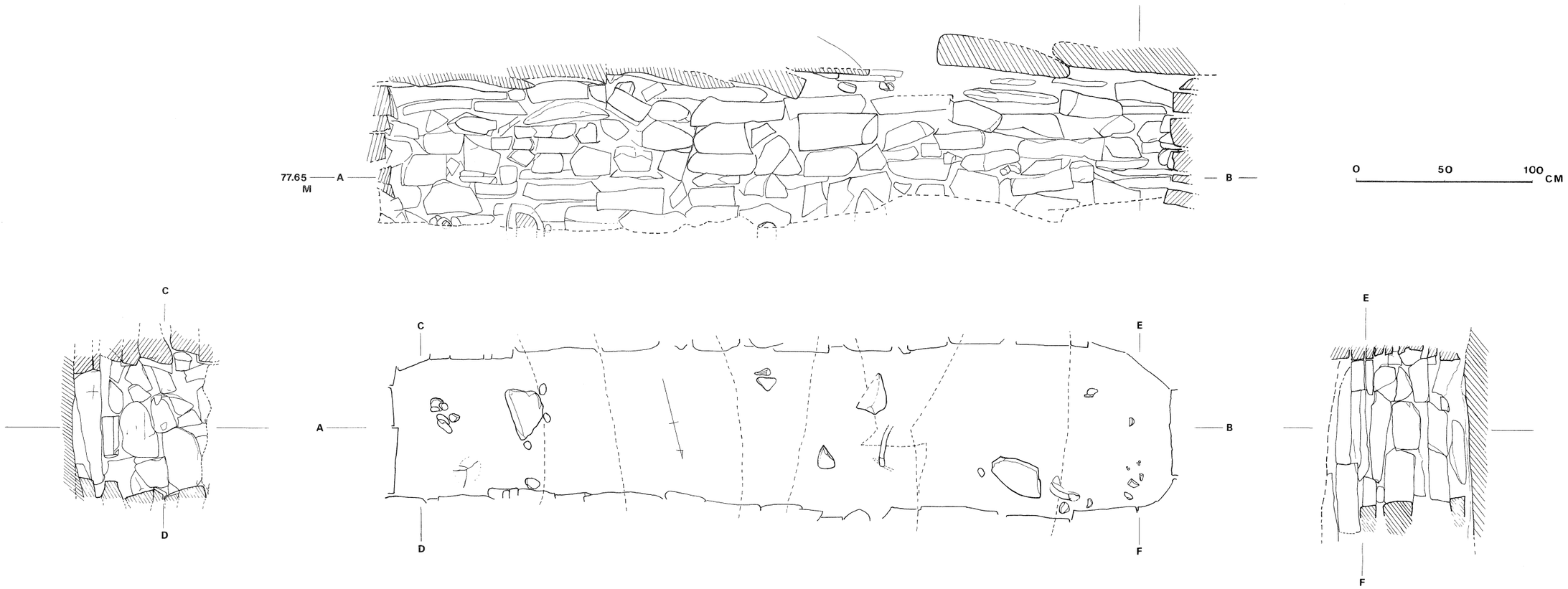


図5　宮谷支群17号墳竪穴式石室　　実　測　図



矢田古墳一覧表

（表　6）

名　称	種　別	所　在　地	概　要
87 矢田古墳群	古　墳	矢田町字宮ノ谷557番地他	岩隈谷支群（前方後円墳２基・方墳８基・円墳５基）・宮谷支群（前方後円墳２基・方墳８基・円墳20基・横穴５基）・椿谷支群（前方後円墳１基・方墳３基・円墳27基・横穴22基）・須賀谷支群（前方後円墳２基・方墳５基・円墳25基・横穴30基）
岩隅谷支群１号墳	円　墳		径９m，高さ1.3m　南側がミゾで画されている。１．２．３号墳は丘陵部分先端に所在する。
２号墳	円　墳		径６m，高さ1.3m　平坦な階段状遺構を呈している。
３号墳	円　墳		径９m，高さ1.5m　南側がミゾで画されていると考えられる。
４号墳	方　墳		９×6.3m，高さ0.5m
５号墳	方　墳		10×12m，高さ1.3m
６号墳	前方後円墳		全長39m，径22.4m，前方部幅14.5m・高さ3.9m　後円部と前方部の比高差がない形態
７号墳	方　墳		12×11m，高さ3.25m　頂上部が破損している。
８号墳	前方後円墳		全長39m，径22.4m，前方部幅14.5m・高さ3.9m　後円部と前方部の比高差がない形態
９号墳	方　墳		11×15m，高さ2.2m　ミゾで画されている。
10号墳	方　墳		12×13.5m，高さ2.2m　ミゾで画されている。
11号墳	方　墳		9.5m　半壊しているが，方墳と考えられる。
12号墳	方　墳		11.7×10.5m，高さ1.2m　東側に平坦面がある。
13号墳	方　墳		９×10m，高さ0.5m　南側はミゾで画されている。
14号墳	円　墳		径14m，高さ2.７m　長方形の壇上の上に古墳が築かれている。
宮谷支群　１号墳	方　墳		15.5×14.8m，高さ3.4m　丘陵先端部に築かれている。北側には平坦面がある。
２号墳	円　墳		径7.8～m，高さ2.8m　北側斜面に横穴とも考えられる凹みがある。
３号墳	方　墳		8.9m，高さ0.5m　北側斜面に横穴とも考えられる凹みが確認される。
４号墳	円　墳		径10～12m，高さ2.7m　北側斜面に横穴が所在する。
５号墳	円　墳		径10～13.5m，高さ0.5m　西側がミゾによって画されている
６号墳	前方後円墳		全長34m，径27m，前方部幅13m・高さ3.8m　丘陵の合わされ目に所在している。
７号墳	方　墳		8.5 ×8.6m，高さ１m　東西斜面に横穴が所在する。
８号墳	円　墳		径10m，高さ2.2m　西斜面に横穴が所在する。
９号墳	円　墳		径12.8m　高さ2.3m　南側に平坦面がある。
10号墳	円　墳		径5.5m，高さ0.8m　西側斜面に横穴が開口している。
11号墳	円　墳		径７～9.4m，高さ1.8m
12号墳	方　墳		９×９m，高さ1.2m　ミゾで画されている。
13号墳	方　墳		20×21m，高さ2.3m　墳頂の平坦部14×12m　丘陵の先端部分と言うべき位置に所在している。
14号墳	円　墳		径14.5～12m，高さ１m　ミゾで画されている。
15号墳	円　墳		径９～m，高さ1.6m　北側に前方部とも考えられるものがある。東側墳丘は崩壊している。
16号墳	前方後円墳		全長21.6m，径14m，前方部幅10m・高さ2.4m　17号墳を切っている。（図４参照）
17号墳	方　墳		25×21m，高さ3.5m　墳頂の平坦部15×12m　丘陵の先端部分と言うべき位置に所在している。（図４・５参照）
18号墳	円　墳		径12～13m，高さ2.9m（図４参照）
19号墳	円　墳		径12m，高さ2.7m
20号墳	円　墳		径６m，高さ２m　丘陵の北側によって築かれている。
21号墳	円　墳		径12～13m，高さ2.3m
22号墳	円　墳		径19～20m，高さ3.6m　墳丘の周辺には平坦面と成っている。

（表　7）

名　称	種　別	所　在　地	概　要
宮谷支群　23号墳	円　墳	矢田町字宮ノ谷557番地他	径10.3m，高さ1.3m　22号の平坦面上に所在する。
24号墳	円　墳		径9.6～11.6m，高さ2.3m　北側に２段の平坦面がある。
25号墳	円　墳		径13～15m，高さ2.8m　南側はミゾで画されている。
26号墳	円　墳		径12m，高さ1.6m　丘陵先端部分に平坦面が造られている。
27号墳	円　墳		径13～14m，高さ3.2 m
28号墳	円　墳		径7.6m，高さ2.5m　北側が半壊している。
29号墳	方　墳		9.3×12.8m，高さ2.8m　ミゾで画されている。
30号墳	方　墳		5.8×9.7m，高さ0.8m　北側が半壊している。
宮谷支群　横穴１号	横　穴		玄室90cm，高さ57cm　丸天井の小さな横穴
横穴２号	横　穴		天井部が崩壊していると考えられる。
横穴３号	横　穴		玄室260 × 180cm，高さ120cm　丸天井形平入
横穴４号	横　穴		玄室270 × 170cm，高さ58cm　丸天井形平入
横穴５号	横　穴		宮の谷支群10古墳の真下にあり横穴が所在すると考えれる。
椿谷支群　１号墳	円　墳		径9.3m，高さ0.7 m
２号墳	円　墳		径11m，高さ1.6m　東側丘陵斜面は平坦面と成っている。
３号墳	円　墳		径18.2m，高さ２m　東側に周溝と考えられる低いミゾが確認できる。
４号墳	円　墳		径６～９m，高さ0.5 m
５号墳	円　墳		径６～m，高さ0.5 m
６号墳	円　墳		径14m，高さ0.9m　丘陵の平坦部分の中央に位置している。
７号墳	円　墳		径８m，高さ0.5m　ミゾで画されている。
８号墳	円　墳		径６～m，高さ0.5m　墳頂部が削平されている。
９号墳	円　墳		径９～m，高さ1.5m　尾根側がミゾで画されている。
10号墳	円　墳		径８～m，高さ1.3m　西側がミゾで画されている。
11号墳	円　墳		径～５，高さ0.3m　東側がミゾで画されている。
12号墳	円　墳		径～7.8m，高さ0.7m　東側斜面に横穴とも考えられる凹みが確認される。
13号墳	方　墳		13×13m，高さ0.5m　東側斜面に横穴が所在する。
14号墳	円　墳		13.6×11.7m，高さ0.7m　南北はミゾで画されている。
15号墳	円　墳		径18～19.8m，高さ2.2m　丘陵が支脈に分かれる付根に所在する。
16号墳	円　墳		径～８m，高さ0.5m　椿谷支群15号墳の南東側裾部に所在する。
17号墳	円　墳		径６～m，高さ0.9m　東側はミゾで画されている。
18号墳	方　墳		8.6×13m，高さ0.6m　椿谷支群20号墳に北側を切られているものと考えられる。
19号墳	円　墳		径8.3～10m，高さ1.8m　北側がミゾで画されている。
20号墳	円　墳		径14～12.1m，高さ1.2m　北側に平坦面が有る。
21号墳	円　墳		径４～m，高さ0.3m　南側がミゾで画されている。
22号墳	円　墳		径～９m以上，高さ0.3m　墳丘の東南の両側が崩壊している。（5.4m残っている）
23号墳	方　墳		9.8×８m，高さ0.5m　西側斜面に横穴が所在する。
24号墳	円　墳		径10～12m，高さ2.6m　23号と接近している。
25号墳	円　墳		径６～６m，高さ1.1m　横穴が東側斜面に３基，西側に１基所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
26号墳	円　墳		径7.2～12.4m，高さ２m
27号墳	前方後円墳		全長15m，径11.3m，高さ1.3m　西側斜面に横穴が所在する。
28号墳	円　墳		径８～12m，高さ1.2m，西側斜面に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
29号墳	円　墳		径８～12m，高さ0.7m，西側斜面に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
30号墳	円　墳		径～8.2m，高さ1.4m　北側に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
31号墳	円　墳		径7.9～9.2m，高さ1.4m　西側斜面に横穴が２基所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。

（表　8）

名　称	種　別	所　在　地	概　要
椿谷支群横穴1号	横　穴	矢田町宮ノ谷556番地他	盗掘ミゾがあり，僅かに盗掘口が確認でき，また墓壁が確認できる。
横穴2号	横　穴		盗掘ミゾがあり，また墓壁が確認できる。
横穴3号	横　穴		盗掘ミゾがあり，また墓壁が確認できる。
横穴4号	横　穴		盗掘ミゾがあり，また墓壁が確認できる。
横穴5号	横　穴		盗掘穴がある。奥行き290cm以上。また墓壁が確認できる。
横穴6号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴7号	横　穴		盗掘ミゾがあり，また前提部の痕跡がある。
横穴8号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴9号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴10号	横　穴		盗掘ミゾがあり，また墓壁が確認できる。
横穴11号	横　穴		玄室330×240cm，高さ220cm　テント形平入，閉塞石が残る。
横穴12号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。羨道部長さは110cmである。
横穴13号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。奥行き240cm,羨道部長110cmである。
横穴14号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴15号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴16号	横　穴		盗掘のミゾがある。墓壁が確認できる。
横穴17号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴18号	横　穴		盗掘穴がある。墓壁が確認できる。
横穴19号	横　穴		盗掘穴がある。
横穴20号	横　穴		盗掘のミゾがある。墓壁が確認できる。
横穴21号	横　穴		盗掘のミゾがある。奥行き（盗掘口から奥壁まで)315cm，墓壁が確認できる。
横穴22号	横　穴		盗掘のミゾがある。二重羨道である。
須賀谷支群1号墳	円　墳		径～6m，高さ0 7m　南側がミゾで画されている。
2号墳	円　墳		径～7.8m，高さ0.6m　南側が5mのミゾで画されている。
3号墳	方　墳		14×12m，高さ1.5m　南側がミゾで画されている。
4号墳	円　墳		径9～m，高さ2.6m　丘陵を3.5m切断して築造している。北側に平坦面がある。
5号墳	円　墳		径～15m，高さ0.7m　先端の丘陵部の最も高い部分に位置する。
6号墳	円　墳		径9.8m～11m，高さ1m　東側に平坦面がある。
7号墳	前方後円墳		全長16.3m，径10.2m，高さ0.9m　丘陵尾根部はミゾで画されている。前方部の東側がやや不明確であり，また掘削去れている。
8号墳	円　墳		径9.3～11m，高さ0.6m　西側斜面に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
9号墳	円　墳		径～6.8m，高さ0.3m　西側斜面に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。昭和30年1月発掘調査
10号墳	円　墳		径9.3～9m，高さ1.5m　西側斜面に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
11号墳	円　墳		径10～13m，高さ1.5m　西側斜面に横穴が所在する。横穴に伴う墳丘と考えられる。
12号墳	円　墳		径7.3～6.7m，高さ0.9m　西側丘陵斜面に横穴が所在する。
13号墳	円　墳		径9～7.5m，高さ0.6m　東側斜面に2基　西側斜面に1基所在する。
14号墳	円　墳		径7～16m，高さ0.7m　西側斜面に横穴が2基所在する。
15号墳	円　墳		径8.4～10m，高さ3.2m
16号墳	円　墳		径～10.3m，高さ0.8m　北側斜面に横穴が2基所在する。墳丘の南側が崩壊している。
17号墳	円　墳		径7～m，北側斜面に横穴が所在する。
18号墳	円　墳		径10～13m，高さ1.2m　北側斜面に横穴が所在する。

（表　9）

名　　称	種　別	所　在　地	概　　要
須賀谷支群19号墳	円　　墳	矢田町宮ノ谷556番地他	径10.5～10.5m，高さ0.95m
20号墳	円　　墳		径８～m，高さ1.3m　北側斜面に横穴が所在する。
21号墳	円　　墳		径10.5～10.5m，高さ0.95m　北側斜面に横穴が所在する。
22号墳	前方後円墳		全長39m，径24m，高さ４m　22号墳はこの古墳の前方部に接して築造している。
23号墳	円　　墳		径10～10m，高さ1.6m　北側斜面に横穴が所在する。
24号墳	円　　墳		径10～10m，高さ1.6m　北側に幅4.3mの造り出しとも考えられるものがある。
25号墳	円　　墳		径12.5～12m，高さ1.8m　丘陵先端部に位置している。
26号墳	方　　墳		13×7.2m，高さ1.2m　北側斜面に横穴が所在する。
27号墳	方　　墳		8.7×９m，高さ0.5m　北側斜面に横穴が所在する。
28号墳	円　　墳		径８m，高さ0.8m　墳丘の南側が削平されている。
29号墳	方　　墳		7.1×７m，高さ0.3ｍ
30号墳	方　　墳		10×5.5m，高さ0.3ｍ
31号墳	方　　墳		10×10m，高さ1.4ｍ
32号墳	円　　墳		径７～10m，高さ1.5m　西側がミゾで画されている。
須賀谷支群横穴１号	横　　穴		テント形平入　崩壊が著しい。
横穴２号	横　　穴		玄室（300×210)cm　高さ120cm　テント形平入
横穴３号	横　　穴		玄室（217×195)cm　高さ139cm　テント形平入
横穴４号	横　　穴		玄室（155×110)cm　高さ95cm　テント形平入
横穴５号	横　　穴		テント形平入　玄室をわずかに遺し破壊されている。
横穴６号	横　　穴		Ⅱ－４号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年 玄室（380×270)cm　高さ170cm　四注平入　石棺
横穴７号	横　　穴		Ⅱ－１号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年 昭和35年１月調査 玄室（300～350×270)cm　高さ170cm　テント形平入　石棺
横穴８号	横　　穴		Ⅱ－２号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年 昭和35年１月調査
横穴９号	横　　穴		Ⅱ－３号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年
横穴10号	横　　穴		Ⅱ－５号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年
横穴11号	横　　穴		横穴の壁部と考えられるものが露出しているため自然崩壊しているものと考えられる。椿谷支群10号墳が丘陵に位置する。
横穴12号	横　　穴		盗掘の痕跡があり横穴と考えられる。
横穴13号	横　　穴		玄室（270×　240)cm 高さ165cm 四注平入　石棺　第一群と第二群との中間北北斜面の横穴「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年　昭和30年１月調査
横穴14号	横　　穴		天井部から開口している。未掘
横穴15号	横　　穴		羨道部が崩壊している。閉塞石が付近にある。椿谷支群17号墳が丘陵上に位置する。
横穴16号	横　　穴		羨道部が僅かに露出している。羨道（露出部分幅）60cm
横穴17号	横　　穴		二重羨道部が僅かに露出している。羨道外（露出部分幅)100cm，羨道内（露出部分幅）70cm　椿谷支群16号墳が丘陵上に位置する。
横穴18号	横　　穴		盗掘穴が確認できる。椿谷支群14号墳が丘陵上に位置する。
横穴19号	横　　穴		玄室（320×320)cm　天井部は崩壊している。四注平入　椿谷支群14号墳が丘陵上に位置する。
横穴20号	横　　穴		玄室（290×220)cm　高さ135cm　テント形平入　Ⅰ－５号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集』昭和44年　昭和35年１月調査
横穴21号	横　　穴		玄室（290×210)cm　高さ155cm　四注平入　Ⅰ－４号

（表　10）

名　　称	種　別	所　在　地	概　　要
横穴22号	横　穴		「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年　昭和35年１月調査 玄室（360×290)cm　高さ190cm　丸天井平入Ｉ－３号　「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年　昭和35年１月調査
横穴23号	横　穴		二重羨道部が僅かに露出している。羨道外（露出部分幅）140cm,羨道内（露出部分幅）78cm
横穴24号	横　穴		玄室（250×190)cm　高さ140cm　テント形平入　Ｉ－２号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年　昭和35年１月調査
横穴25号	横　穴		奥室が付く。玄室（290×240)cm　高さ165cm　奥室（220×130)cm　高さ120cm　テント形平入Ｉ－１号「島根県埋蔵文化財調査報告書第一集」昭和44年　昭和35年１月調査
横穴26号	横　穴		盗掘は受けておらず，玄室部分の崩壊による。テント形平入　須賀谷支群20号墳の直下にある。
横穴27号	横　穴		盗掘口がある。墓壁が確認できる。須賀谷支群21号墳の直下にある。
横穴28号	横　穴		盗掘口がある。墓壁が確認できる。須賀谷支群26号墳の直下にある。
横穴29号	横　穴		盗掘ミゾがある。墓壁が確認できる。須賀谷支群27号墳の直下にある。
横穴30号	横　穴		盗掘口がある。墓壁が確認できる。須賀谷支群23号墳の直下にある。

※注　(1)　円墳径の計測値に使用している　～　のマークは，丘陵の尾根方向に対して直角の数値を左に丘陵と同方向の数値を右に記したものである。

(2)　黒鳥２号横穴発掘調査報告書（1983年）に「この部分は（前庭部から見ると）平面的には台形，断面は緩やかな弧状を呈す」と羨道上の壁を「墓壁」と仮称したが，今回の調査では，横穴羨道上の削り出された垂直の壁をすべて墓壁とした。

No.１８３　山国郷新造院跡（図６参照）

出雲国風土記に「新造院一所，在山国郷中，郡家東南州一里一百甘歩。建立，三層塔也。山国郷人日置根緒之所造也。」とあり，その推定地として別所の釈迦堂跡が最も有力視されている。ここは現在，畑とされたり，檜が植えられたりされている。大正１４年調べの曽田義文著吉田史料集によると「釈迦堂は鍵尾谷と別所谷との交叉点，今の幸神森の北下，山麗にして，主として桑園に化す。当時の遺物としての大門跡（今地名となる）を寺跡らしきもの二カ所古瓦の出づる畑，池らしき所（大男サンの下位）仲尾氏邸内の古椿，幸神森同所古墳等にしてこれらの土地を併算する時は五，六反及至一町歩に連なり，当時の広大荘厳なりし事想察するに余りある。（中略）大門の地今山崎重次郎の居とす。先年宅地の拡張の為地を穿ちしに土中より掘立柱の根の直立の儘埋もれているのを発見せしこと在す。」とあり，また，古瓦については，「別所釈迦堂西南隅，山腹一帯約二畝歩に亘り古瓦の破片散乱する。」と記されている。このほかに，昭和三十年代には瓦窯跡が所在することも確認されている。

今回山国郷新造院と推定されている釈迦堂跡の地形測量調査を実施した，かなりの平坦地があることを確認した。しかし，窯跡を除いては新造院の時代と合う遺構を見いだすことはできなかったし，吉田史料に記されている二ケ所の瓦の出土場所についても現状では判然としない状況であった。現在，山国郷の範囲と考えられている地域で布目瓦が出土するのは，山国郷新造院跡，古市遺跡，鳥木ガランサン遺跡の三カ所である。

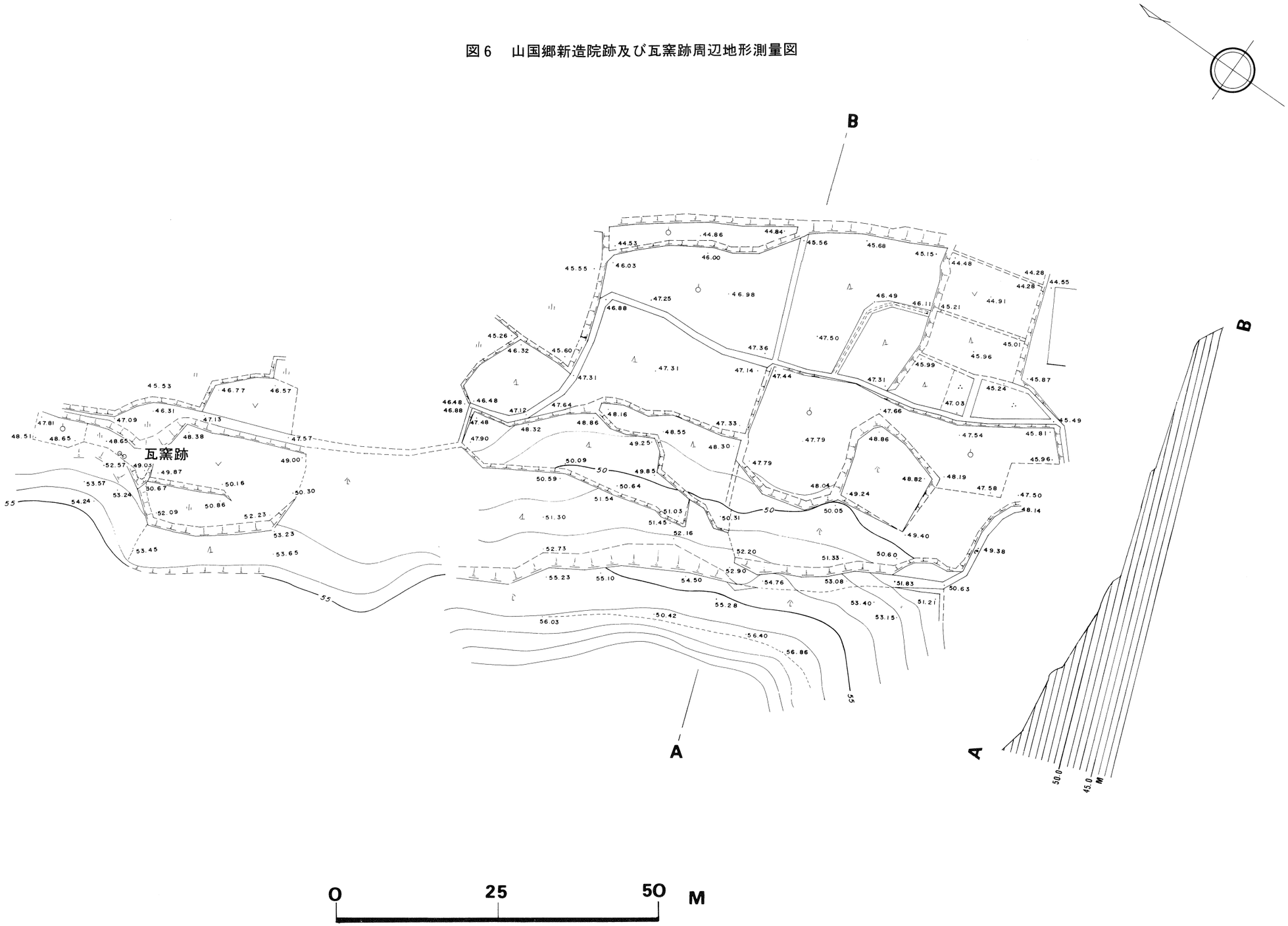
註１　近藤正「『出雲国風土記』記載の新造院とその造立者」『日本歴史考古学論叢二』昭和４２年

No.８３　能義神社奥の院古墳（図７参照）

能義神社奥の院古墳は現在の所本市最大の円墳である。この古墳は能義神社が所在する丘陵のほぼ中央の同丘陵のもっとも高いところに所在する。北から望むと谷奥で丘陵と丘陵とが出合う部分に所在する在り方である。墳丘の標高は３６.５ｍである。墳丘規模は南北方向３３ｍ，東西方向２６ｍの楕円形というべき形をしている。高さは北側で４ｍである。周辺には二重の周溝が巡っていたものと推定できる。最初の周溝は西側で１５ｍであり，東側は後世の開墾でかなり破壊されているが全周に巡らして在ったと推定できる。外側の周溝は北東側と北西側の一部確認できるが全周に巡らされていたかどうかは不明である。

昭和４２年に安来市指定史跡に指定されている。

図６　山国郷新造院跡及び瓦窯跡周辺地形測量図



Ⓐ

図７　奥の院古墳　地形測量図

Ⓑ

宮谷支墳17号墳　竪穴式石室西側奥壁

竪穴式石室東側奥壁

宮谷支群18号から望んだ17号墳（方墳）全景、中央は横穴、左側奥に16号墳（前方後円墳）の前方部がわずかに見える。